

主 題：感情の波に打ち負かされるとき

聖書箇所：詩篇 13篇

獄中にある1週間は自由の身の時の1ヶ月よりも長く感じるということを知ったことがあります。厳しい状況にある時の時間の経過は遅く感じられ、そこから逃れることはできないと思ってしまう。人生の中で苦しく辛い現実の戦いがあるとき、私たちは希望を失って行きます。そして、神はこの私を憎んでおられるのではないかとさえ思ってしまう。これらはその中に置かれたときの私たちの感情がもたらすことです。

ダビデはこのような思いをこの詩篇13篇に記しています。人生は決して楽なものではありません。特に、神に正しく従順であろうとするならなおさら厳しい現実と直面します。人生は困難に満ちている、ダビデもそのことを経験しました。常に敵に囲まれており、生涯の多くの日々サウル王に追われ、王となった後の平安な日々は束の間で、自分の罪が招いたこととはいえ、家族に混乱が起こり、息子にいのちを狙われ再び逃亡の身となるのです。安堵の日より苦しみの日々がはるかに多かったのです。そのような境遇の中でダビデは深い嘆きの内にありました。この詩篇13篇の背景がどのようなものであったかは不明ですが、ダビデの深い嘆きは神への賛美と変わって行きます。その過程をここから見て、ともに学んで行きましょう。

☆ 感情が打ち寄せてきて私たちが嘆きの中に引き込まれるとき、どのようにそれに打ち勝ち、神に賛美できるように変えられてゆくのでしょうか？

1. 感情は欺きをもたらす危険なものです

1、2節にダビデの嘆きが書かれています。困難に直面した当初はそれに正しく対処できても、それが長く続くと私たちの心はだんだん頑なになってゆきます。あらゆる喜びが奪い去られてゆきます。初めにある「主よ。いつまでですか。」というダビデの叫びは、ダビデがもっていた内側の悲しみを顕著に現わしており、感情によるものです。落胆と嘆き、悲しみと苦しみにいっぱいだったのです。ダビデはここで四つの嘆きを「いつまでですか？」という同じことばで神に問いかけています。

○感情がどのように私たちに欺くのでしょうか？

1) 神の性質を忘れさせる

「あなたは私を永久にお忘れになるのですか。」、ダビデは神は決して忘れる方ではないと知っているのに、神は忘却に満ちていると言うのです。神がその愛する民を忘れることがありましようか！特に神が目留めておられるダビデを忘れることなどないのです。たとえ状況が改善されることがなくても、神は全知のお方です。すべてを知っておられます。しかし、私たちが感情に任せているなら、「神は私を忘れておられる！」となり、深い落胆と苛立ちがおこります。ヨブがその通りでした。非常な苦難に襲われた時も彼は神を賛美していました。妻にののしられても…。しかし、彼自身が定めていた時を越えてもなお状況が変わらないとき、彼は神に不平を言いました。私たちが忍耐を忘れて行動するとき、私たちの感情が私を神から遠ざけるのです。

私たちは神のときを忍耐をもって待つことです。みことばは教えています。イザヤ40：31「しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかけて上ることができる。」。詩篇25：3「まことに、あなたを待ち望む者は、だれも恥を見ません。」。詩篇147：11「主を恐れる者と御恵みを待ち望むとを主は好まれる。」。ヤコブ1：12「試練に耐える人は幸いです。耐え抜いて良しと認められた人は、神を愛する者に約束された、いのちの冠を受けるからです。」。私たちが経験する苦しみ、悲しみは辛いものですが、その中で神をほんとうに知っているなら、神は私とともに嘆いてくださると理解し、喜びに満たされるのです。

2) 神の愛を忘れさせる

「いつまで御顔を私からお隠しになるのですか。」、神は私を無視しておられる、神の愛、良い働きは私のところには来ることがないという、これはダビデの絶望です。神の良い働きが取り去られることがあるのでしょうか？否です。神は罪を憎み、罪から顔をそむけられることはあります。ヘブル12章には神はその愛する者を懲らしめると言われています。12：6「主はその愛する者を懲らしめ、受け入

れるすべての子に、むちを加えられるからである。」と。しかし、ここではダビデの罪への懲らしめのためにこのように言うのではありません。ダビデの感情がそのように神が私から御顔をそむけると思わせるのです。このような感情が長く続くと、私たちは孤独に陥り、私を弱いものにし、敗北してゆきます。ダビデはまさにこの道をたどっているのです。彼の感情の波が彼をそこへ追いやっているのです。このような感情は「罪」であると私たちは気づくべきです。そうでなければ問題の解決がもたらされることはないからです。みことばは言います。ローマ8：38，39「私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」と。私たちは罪を悔い改めてこの確信を持ち続けることです。

3) 神の知恵を忘れさせる

2節「いつまで私は自分のたましいのうちで、思い計らなければならないのでしょうか。」「思い計る」とは助言する、カウンセラーです。私たちは感情に流されるとき、理性に欠けた考え方を頭の中で練っています。神は私を忘れていて、愛してくださっていない、だから、自分の中で問題の解決をなそうとするのです。心配するのです。その結果、「私の心には、一日中、悲しみがある」のです。解決する方法がないからです。神がどのようなお方か、神の知恵を覚えるべきです。神はその苦しみや困難を用いて神の最善を成してくださるからです。ローマ8：28「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」。私たちは神の真理に導かれるべきです。神の知恵に従って考えて行くことです。ゆえに神を知ることが大切です。そのために、私たちは神学を学ぶのです。神学は学問ではなく、私たちがどのように生きてゆくのか、正しい判断を知って行く学びなのです。ダビデはそれを十分知っていたはずですが。しかし、彼は自分の感情の波に負かされようとしていたのです。

4) 神の力を忘れさせる

2節B「いつまで敵が私の上に、勝ちおごるのでしょう。」、敵が何であるとしても私に勝ち目はなく、敵の支配の中に置かれてしまうと言います。ダビデは現に苦しみの中にいました。しかし、それに感情によって対処するなら悲嘆の中に陥ります。ローマ8：31を見ましょう。「…神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょうか。」、また、詩篇118：6「主は私の味方。私は恐れはない。人は、私に何ができよう。」、だれもいません。だれもできません。I ヨハネ4：4には「子どもたちよ。あなたがたは神から出た者です。そして彼らに勝ったのです。あなたがたのうちにおられる方が、この世のうちにいる、あの者よりも力があるからです。」とあります。

私たちは感情に支配されてしまうと希望も喜びもありません。自己崩壊が起こります。このことの解決は心を正しくしようとすることです。

2. 祈りによってその心が矯正される 3節

3節に三つの祈りを見ます。

1) 私に目を注ぎ

問題の解決に向けて正しい焦点を与えること、神が私にあわれみ深い、恵み深い目を向けてくださいと願うのです。なぜなら、神は私を忘れていていると思っているからです。ダビデは自分の問題がよく分かっていました。三つの願いはダビデが置かれている状況の変化を求めているものではありません。神が私に目を向けておられないと思う自分の心に問題があると分かっているのです。ゆえに、目を注いでくださいと願うのです。私を正しい真理へと導いてくださいと祈るのです。

2) 私に答えてください

自分で思い計っていたから解決はない、どうか、神よ、あなたの解決を教えてくださいと祈ります。私たちは完全に知らないから、神の真理を知りそれに導かれることを願うのです。

3) 私の目を耀かせてください

生気を与えることです。ヨナタンが長い戦いで疲れ果てていたとき目は暗かったのですが、蜂蜜によって目が耀いたとありますが、その意味です。I サムエル14：27「…それで手にあった杖の先を伸ばして、それを蜜蜂の巣に浸し、それを手につけて口に入れた。すると彼の目が耀いた。」。私は力が失せているから、あなたの力を与えてください、それができる神だからと祈ります。

このようにダビデは祈りを通してその心を矯正して行くのです。ダビデの祈る理由が3節の後半から

4節に書かれているのですが、私たちはそれに目を留めなけれがなりません。それは苦しみからの解放、解決だけでなく、神がもしこの問題を解決されなければ、神が低いものとされると言うのです。敵は私だけでなく神を嘲ると。神が汚されることがないように、だから、正しい方法で私を導いてください、と願うのです。私たちの生涯は神のすばらしさの証であるはずだから、あなたの名のすばらしさは私の生涯の歩みにかかっていると言うのです。

3. 私たちが意志を持って正しく判断でき、神は私を守られる 5, 6節

ダビデの意志がダビデに働きかけるのです。そして、神への賛美が起こります。その賛美は、

1) 神の誠実さに対して、

神の正しさ、変わらず愛し続ける方であるから、私は抛り頼みましたと言います。

2) 私は真理に基づいた判断をします

「主が私を豊かにあしらわれたゆえ。」と過去に神が成されたことを思い起こし、「救いを喜びます」と神の真実を思い起こすのです。イスラエルの歴史を思い、神の約束を信じていることを明らかにします。問題の解決、状況の改善はなくても、「私は主に歌を歌います。」と賛美するのです。救われてキリストのうちにある者は、ダビデと同じ確信をもちます。

⇒神は約束を守られる真実な方であるとの確信は、困難の中にも喜びをもって進んでゆける力となります。ダビデはそうにしたのです。それは私たちに勇気を与えます。どのような選択をするのか、私たちが学んだ神学によって、意志をもって感情に打ち勝ってゆくとき、神を賛美するものへと変えられてゆくのです。